

令和3年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	21A102	領域略称名	水共生学
研究領域名	ゆらぎの場としての水循環システムの動態的解明による水共生学の創生		
領域代表者名 (所属等)	荒谷 邦雄（九州大学・比較社会文化研究院・教授）		

（応募領域の研究概要）

生命に欠かせない"水"をとりまく環境は、気候の変動や生態系の遷移、水に関わる社会状況の変化など、多様な内的/外的要因に起因する「ゆらぎ」を常態的に内包している。このゆらぎの幅が大きくなると、気象災害の頻発や水資源紛争の発生、生物多様性の喪失など、人間社会や生態系に多大なる影響が生じる。こうした水危機・水リスクを軽減させ、水とヒト、生物が持続的に共生する社会を実現することは、国際的にも重要な課題である。本研究領域では水をめぐる環境を地球圏 生物圏 人間圏の相互作用によって成立する「水循環システム」として捉え、それら3つの圏域のバランスの歴史的な変遷や現状の動態を解明し、地域の実態に即した水環境の社会的課題解決への道筋を探り、将来像を提案することを主要な目的とする新たな学問分野"水共生学"の創生を目指す。

（審査結果の所見）

水環境を地球圏 - 生物圏 - 人間圏の相互作用として、それらのバランスを動的にとらえ、人類の将来にとって重要な研究課題である「水共生学」を三つの圏域のせめぎ合いによって生じる「ゆらぎの場」としてとらえる発想はユニークである。人文社会科学と自然科学の学際的越境や融合を目指す高い志は、現代社会の喫緊の課題にも応えようとするものとして高く評価できる。

複数の計画研究組織が共同して調査・研究・社会実装まで行う共同フィールドとして、釧路を中心とした北海道道東、筑後川流域、琉球列島、トンレサップ湖を中心としたメコン流域などを設定して、水循環システムの将来シナリオの策定からモデル化を目指す協働体制も注目される。

今後、個別研究を統括する計画研究組織間の連絡を密にして充実させて、方法論の吟味も含めてより一層連携を強化することによって相互概念の深化が期待される。